

旧本館の後に やがて新本館が完成します

工事は順調に
すすんでいます!

80年以上もの長い間、周辺地域の医療を支える場となった旧本館の解体が始まりました。レトロモダンな設計は、阪神間モダニズムの代表建築とされ日本建築学会から保存の要請を受けた程です。しかしながら、老朽化が進んでいることもあり解体を余儀なくされました。2022年4月のグランドオープンにむけて工事が進められていきます。



職員専用通路から見る解体の様子



新本館から見る東館・南館・東側の市街地



ほとんどが解体された旧本館



甲南医療センター

〒658-0064 兵庫県神戸市東灘区鴨子ヶ原1-5-16
TEL:078-851-2161(病院代表)
TEL:078-854-4370(患者サポートセンター)



六甲アイランド甲南病院

〒658-0032 兵庫県神戸市東灘区向洋町中2-11
TEL:078-858-1111(病院代表)
TEL:078-858-2322(患者サポートセンター)



「地域の皆様と心を通わす」

甲南通信

2020
August
特集号

▼感染対策委員会の様子



院内感染阻止 —新型コロナ防御戦略— 当院の経験、実践のまとめと今後の対策



<魚崎中学校生の寄せ書き>



感染防御を 最大化して 地域の医療を守る

2020年
盛夏

甲南医療センター 院長 具 英成

当院は新型コロナウイルスの感染拡大に際し、地域の感染
対応病院として3月11日に発熱-接触者外来を開設しました。

その後、感染の疑い例に対して、2020年3月11日～7月11日

までにPCR検査を203件実施し、13人の陽性患者(6.4%)を経験しました。この間、近隣の神戸市立中央市民病院、神戸赤十字病院、神戸労災病院などの基幹病院では院内感染のため救急業務がほぼ停止され、当院が市内最多の救急搬送受け入れ施設(3～6月の救急車:432台/月平均)となりました。もとより救急診療には常に院内感染のリスクがあります。実際、多くの医療機関がその憂き目にあい、外来、入院の停止など診療や経営に甚大な被害を受けています。

当院では7月1日に他院から転院した患者さまが数日後に発熱し7月14日にPCR陽性と判明しました。その結果、同室患者、職員を含む多数の接触者が発生し、まさに院内感染の重大危機に直面しました。しかし、PCR検査を含む徹底した検査を行い、陽性者ゼロという結果を得ることが出来ました。これは一重に当院の感染対策チームを中心とする全職員の感染防御に対する高い力量の故と言っても過言ではありません。病院責任者として、この難局を切り抜けるのに最善を尽くした職員一同を誇らしく思うとともに、ご家族の皆様の協力に深甚なる謝意を表します。

今回の新型コロナウイルス感染症の事例は他院からの転院例でしたが貴重な体験となりました。今、感染拡大の渦中において地域の救急を担う基幹病院としてはウイルス陽性もしくは疑似例の増加が予想されます。感染が確認されれば当面、他の指定病院に転院をお願いしますが、展開によっては一時的な入院が必要になることも予想されます。いつも危機は思わぬルートに潜んで顕在化します。不意をつくウイルス感染を未然に防ぐには、職員全体が知識と経験を深める以外に有効な手立てはありません。今後も院内感染を徹底して阻止するために職員一同、感性を研ぎ澄まして当たることをお約束します。

7月14日の事例は当院を訪れる患者さま、家族に大きな不安と心配をもたらしました。想定範囲とは言え、実際に起こると地域社会には依然として極めて敏感な反応がありました。その結果、外来、入院業務に少なからぬ影響が見られました。とは言え、このような事例は新型コロナウイルス感染症が蔓延する事態ではますます増加すると予想されます。いくつかの病院で院内感染が頻発すると神戸市の地域医療が崩壊し、場合によっては病院崩壊という重大局面が招かれます。当院では万一の場合にも職員全員が医療人の使命と矜持をしっかり持ち、沈着、冷静に感染防御にあたり安心安全の医療を徹底いたします。そして、当院が新型コロナウイルス感染症によるこの難局を乗り越えて、さらに質の高い医療を皆様に届け続けられることを切望しています。

新型コロナウイルス感染症 陽性例の発生と経緯、今後の対策

緊急
ニュース!

2020年7月、甲南医療センターにおいて新型コロナウイルス陽性例が発生しました。この件では、地域の皆様にご心配をおかけした事と思えます。これを教訓とするべく、発生と経緯についてまとめました。

<陽性例> 50代男性：形成外科での治療のために入院

発生と経緯

- 7月1日 A病院で入院加療の後、当院の形成外科の治療法である「高圧酸素療法」を受ける為に転院され入院。
- 7月4日 発熱。発熱は、治療中の疾患による可能性が高いと考えられたため抗生剤を投与し、経過観察
- 7月13日 4日以降、抗生剤の投与を続けていましたが発熱が続くため、胸部CTを施行。肺炎が確認できたため個室隔離を行い、PCR検査を保健所に提出。検査結果が判明するまでこの日以降の治療は一旦中止とした。
- 7月14日 新型コロナウイルス陽性を確認。当院での治療は終了し、神戸市内の感染症指定医療機関へ転院。また、緊急の新型コロナ対策委員会が開催され、保健所の指導で院内での濃厚接触者45名(下表①②該当者)を選定し、リストを作成。保健所によるPCR検査を実施。また、軽度接触者24名には、健康状態の確認を行なう。

【PCR検査対象者選定項目】

- ① 感染患者の発熱日～個室管理までの期間に、診察や処置などで直接的な接触が15分以上複数日数ある者
- ② 感染患者の発熱日～個室管理までの期間に生活を共にしている者(同室者)
- ③ 感染患者と直接的な接触がなく、書類や配膳など間接的な軽度の接触がある者
- ④ 感染患者との直接的な接触がなく、環境共有の者(清掃等)

その他、
委員会で決定
された事

- 形成外科外来の外来診療と新規入院の当面禁止
- 入院患者さんへの面会を「制限」から「原則禁止」へ
- 入院されていた病棟からの転院・退院の見合わせ



- 7月15日 治療を担当した形成外科の医師、担当看護師、担当理学療法士のPCR検査を実施し、陰性を確認。関連する部署の消毒を完了。
他の患者さん、病棟看護師、医療事務、栄養士、薬剤師、臨床工学士など、感染の可能性がある職員41名についてのPCR検査を実施し、全員の陰性を確認。
- 7月17日 濃厚接触者45名、全員の陰性を確認。院内感染の発生は無し
- 7月20日 保健所からの指導によるPCR検査が必要と考えられる患者さん・ご家族への連絡を完了。

当院では、従来より院内感染対策に感染制御チーム(ICT)が積極的に関与して、新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症の拡大を防ぐ仕組みになっています。新型コロナウイルス感染症の流行が始まってからは、発熱の患者様が受診される場合には、接触者外来で感染防御策をきちんと取りながら、血液検査、胸部レントゲン写真、胸部CT検査などを行い、発熱の精査を行います。また、発熱の原因がはっきりしない場合や新型コロナウイルス感染を疑うような肺炎がある場合には、新型コロナウイルス感染症の可能性も考え、PCR検査も行っています。入院が必要な病態の場合には、個室に入室していただき、PCR検査の結果が出るまでは、全スタッフの感染防御策を積極的に行い、院内感染を防ぐようにしています。



院内感染の防止には、全職員の感染に対する知識と実践が欠かせません。

新型コロナウイルス感染症 防御戦略 ~これまで、いま、これから~

世界・国内の動き

2020年1月6日、厚生労働省は、中国・武漢市での病原体未特定肺炎発生を報告しました。この未知の感染症は、新型コロナウイルス感染症として『ヒト-ヒト』感染を拡大させ、1月30日、国内1例目が報告されました。神戸市内で初めて発生が報告されたのは3月2日です。その後、大阪市内や神戸市内でも集団発生が相次ぎ、医療現場は逼迫して状況を迎えることとなります。この、世界的に大流行を招いた『新型コロナウイルス』に関するこれまでの社会情勢に合わせ、当院における感染防御戦略をご紹介します。



医療センターの動き



新型コロナ対策会議の様子

1月 帰国者・接触者・発熱者からの受診相談対応、受診調整開始

1月当初より、感染対策室ではコロナウイルス感染症の院内対策マニュアルの作成に取り掛かり、電話での相談対応に備えました。中旬には空気感染対策用陰圧テントユニットを救急外来の診療室に設置し、また院内での対応について研修会等を行いました。



(ICTニュース)

2月 発熱・接触者外来運営開始

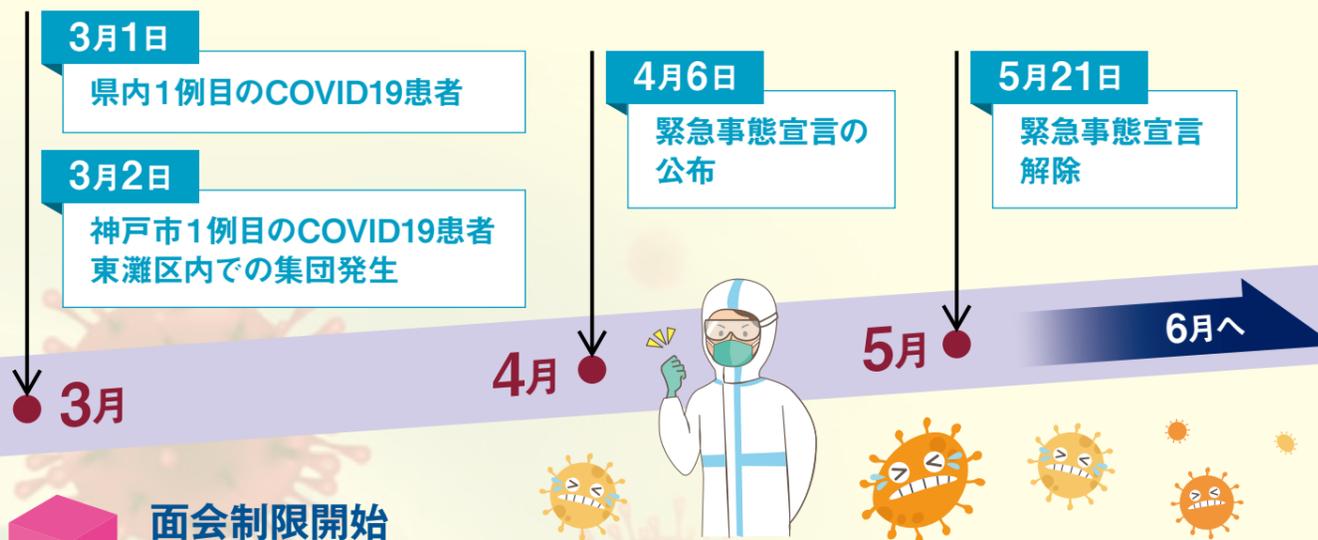
接触者外来の設置の際には、発熱患者さんとその他の患者さんが院内で接触しないように、診察時間や検査経路など時間的空間的に工夫を施しました。受付時間を14時から16時の事前予約に限定し入り口・通路・診察室だけでなく、検査・会計も一般患者さんと分けて、独立して行いました。



各受付にはビニールカーテンを設置



発熱・接触者外来の診療設備



3月 面会制限開始

3月2日 神戸市内で初の感染者、東灘区内での集団発生に伴い、当院でも面会制限を行い院内感染発生を防ぐことに努めました。下旬になると神戸市内の発症のピークと重なるように、接触者外来の受診相談電話も数日先までの受診調整が必要となっていました。地域の住民からの発熱相談や近隣クリニックからの感染対策の問い合わせが殺到し、感染対策室では対応に追われる日々でした。



入り口には面会禁止の案内

4月 面会禁止、不急の内視鏡・カテーテル検査、手術の延期

日本消化器内視鏡学会や日本心血管インターベンション治療学会からの提言を鑑み、不急な検査や手術については延期しました。また、緊急事態宣言や特別警戒地域に指定されたのを機に、面会は禁止とする事で患者さまでなく、現場で働く職員への感染防止に努めました。

5月 内視鏡・カテーテル検査、手術の再開

連休明けには、発熱受診相談の件数も減り、落ち着いたを取り戻しつつありました。緊急事態宣言解除を受け、延期していた内視鏡・カテーテル検査、手術を徐々に再開していきました。



一般外来 検温の様子

◎感染拡大防御策Ⅰ ～接触者外来の設置～

1月に「新型コロナウイルス感染症」が発生してから、世界中だけでなく日本国内のあらゆる地域から、感染者の報告が相次ぎました。当院では、電話相談窓口を設置し、加えて一般外来とは別に「**接触者外来**」を設けました。これにより、発熱している患者さんと一般外来の患者さんとは接触しない空間を設け、院内における感染拡大を防ぐ最初の取り組みとなりました。

【新型コロナ対策委員会メンバー／副院長：山田 浩幸】

十分な感染対策を行いながらの診療は、普段よりもさらに、一人の患者さんに時間が掛かるため、予約枠は拡げることが困難でした。しかし、3月後半になり受診相談が急増し、予約が入らない状況となったため、一部午前中の時間にも発熱症状の患者さんを受け入れる体制を作りました。5月31日までに**接触者外来受診患者さんは207名**でした。

コロナウイルス感染症に関するQ&A ～受診の際に気になること～

Q 発熱している患者さんへの対応はどのようにしていますか？

A まずは新型コロナウイルス感染症を除外するための問診・検査を行い、疑い患者さんとして十分な感染対策を行いながら、並行して別の病気の検討も行います。



Q 抗体検査はしていますか？唾液で検査ができると新聞記事を見ました。甲南医療センターの検査対応を教えてください。

A 現時点では抗体検査はしていません。またPCR検査は現在鼻腔から採取していますが、保健所とも連携して唾液からの検査に移行したいと思っています。



新型コロナ対策委員会メンバー／副院長 山田 浩幸

Q 冬になるとコロナかインフルエンザか判断が難しいです。全て発熱外来での対応になるのでしょうか？

A 発熱患者さんは原則としてすべて、熱のない患者さんとは別の場所に対応しています。

◎感染拡大防御策Ⅱ ～徹底した院内感染対策～

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が指定感染症として定まったことを受け、定例の院内感染対策委員会だけでなく、感染対策室と病院幹部による臨時会議、感染対策室と関係部門長による感染対策ミーティングを開催し、地域の感染動向の確認と院内対応の評価と見直しを続けました。さらに、感染対策組織の臨時枠として、この感染症に特化した外来・入院の感染対策を検討・決定する**新型コロナ対策委員会**と実働する**新型コロナ感染対策チーム(ICT)**を立ち上げました。コロナ対策委員会・コロナICTは、救急外来での発熱者の検査体制や感染対策の標準化を図りました。また、兵庫県内の感染者の増加に伴い、院内の陽性者入院受け入れの具体案の検討も行いました。コロナICTは発熱や肺炎症状を呈する入院症例への感染対策の助言、職員教育を徹底し、また疑似症例の受け入れは、病棟を限定、全例個室入院、看護師の専任化を図りました。

【新型コロナICTメンバー／呼吸器内科部長：中田 恭介】

4月に呼吸器内科医として赴任し、新型コロナウイルス肺炎の対策チームの一員となりました。優先的な取り組みは、未知の新型コロナウイルス肺炎の情報を集めて整理することと、すべての職員に感染対策の教育でした。具体的には、病棟や診察室、検査室など院内のすべての部署の消毒法や医療廃棄物の処理法、感染防御具の使用法の伝達と教育を繰り返し行いました。幸い、当院では新型コロナウイルス肺炎の院内感染を起こさずに、積極的に救急患者の受け入れを行ってききましたが、今後もコロナウイルス肺炎との闘いは続いていくものと思われます。「恐れすぎずに恐れる」をモットーに、現場に過大な負担をかけることなく、必要十分な感染予防対策を行っているように、日々情報収集を行っています。



新型コロナICTメンバー／呼吸器内科部長 中田 恭介

【院内感染対策委員会委員長／副院長：太田 國隆】

患者さんと院内のスタッフをあらゆる感染から守る。これが感染対策委員会がやるべき一番大切なことです。新型コロナウイルス感染症については、潜伏期が長い、無症状やごく軽い症状の感染者がいること、当初は、検査方法が行政依頼検査(PCR法)だけで、結果が出るのに時間がかかること、検体採取に危険を伴うことなど厄介な点がありました。ウイルス感染対策の基本は感染経路を断つことなので、飛沫感染、接触感染の対策(手洗い、マスク、環境整備など)を徹底して、発熱や咳などの症状がある疑わしい患者さんについては、外来でも入院病棟でもほかの患者さんに接触しないように工夫して診察を行うようにしました。ただし、神戸市内では新型コロナウイルスの流行がまだまだ続いています。これからも手洗い、マスク、ソーシャルディスタンスなど感染対策にご協力をお願いします。



院内感染対策委員会委員長／副院長 太田 國隆

コロナウイルス感染症に関するQ&A ～日常生活で気になること～

Q 第2・3波が来るのが怖いです。個人での予防・対応策を教えてください。

A 現在、私たちに求められている個人での感染予防策は、新型コロナウイルスの感染が広がるリスクを理解し、これらに対応する生活の工夫です。まずは、「3密」を避ける生活への見直しです。そして、マスクを適切に着用することです。マスクは新型コロナウイルスの感染症状(発熱・咳・全身のだるさなど)の有無に関係なく、人と対面するときには着用しましょう。こまめに手を清潔にすることも大切です。帰宅後・食事前・トイレ(おむつ交換)のあと・公共の物に触れた後など、こまめに石けん手洗いやアルコール性消毒剤による手指消毒をお勧めします。また、家族や職場で体調の変化をきたした方がいらっしゃる場合、皆がよく触れるドアノブやトイレ、テーブルや電話などの環境をアルコール消毒剤や除菌シートなどでこまめに拭くことも重要です。(参考：第一波を乗り越えて、いま私たちに求められる理解と行動、日本環境感染学会)

Q 犬や猫、飼っているペットにはうつらないのですか？

A 海外ではペットの犬や猫から新型コロナウイルスを検出した報告が上がっています。国内においては、新型コロナウイルスが飼育しているペットから人に感染した事例は報告されていません。世界小動物獣医師会や米国の疾病予防センター(CDC)は、犬や猫に感染が起こったとしても人に感染させられるレベルのウイルス排泄の報告はないとし、「自分自身が新型コロナウイルス感染症に罹患した場合は、飼育ペットについても接触を制限するべき」と感染している人からペットへの感染について述べています。その上で、**飼育しているペットは可能な限り室内飼いにし、衛生状態と栄養状態を保ち、動物を触った後は手を洗うことを推奨**しています。



Q テレワークができない仕事をしています。自分なりに感染対策はしているつもりですがコロナに感染したら悪い人扱いされそうです。何かコロナ感染者に対する補償はあるのでしょうか？

A 企業などで働く人が新型コロナウイルスに感染し、療養のために4日以上仕事を休み、収入が無くなったり減ったりした場合の保障には**傷病手当金**があります。このほか、生活を支えるための支援については、厚生労働省ホームページに案内を提示し、リーフレットを発行しています。詳しくはこちらをご確認ください。

厚生労働省 生活を支えるためのご支援

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000625688.pdf> ➡



← また、新型コロナウイルス感染症に関連する不安や職場でのメンタルヘルスなどのこのころの健康相談や、くらしの相談に関しては、**神戸市役所でも相談窓口**を開設しています。

コロナウイルス感染症に関するQ&A ～家庭内で気になること～

Q 小さい子供がいるので家族からの感染が怖いです。家庭内での対応を教えてください。

A 新型コロナウイルス感染症は主に接触感染と飛沫感染です。また、子供の感染はほとんどが大人からの家族内感染と言われています。まず、家族が新型コロナウイルスに感染しないことが一番ですが、もし感染してしまった場合には、部屋を分けて隔離すること、感染者の触ったところは確実に消毒すること、ご飯を食べる前にはよく手洗いをするなどが大切です。

Q 小学生の子供もマスクが暑いと嫌がります。熱中症の事も気になります。この先ずっとマスクはしないとイケないのでしょうか？

A 日本小児科学会は窒息などの危険を防ぐために2歳以下のこどもはマスクをしないことを推奨しています。熱中症の危険がある場合にはマスクを外すことも大事です。近くに人がいないときなどはマスクを外してかまいません。人との距離を取ること、換気をきちんとすることで感染を予防しましょう。

Q 子供がいるので、夏になるとプールや家族旅行に行きたいと計画しています。どんな事に気をつけると良いですか？

A プールの水にウイルスがいて感染することはありません。更衣室などで密を避ける、どこか触ったら手を洗う、タオルを共用しないなど、感染しやすい状況に気をつけてください。家族旅行も保護者ととも集団との3密(密閉、密集、密接)を避け、人との距離(ソーシャル・ディスタンス)を保つことと手洗い、手指消毒を厳重にすることで感染を予防しましょう。

◎感染拡大防御策Ⅲ ～医療の最前線、救急医療を守る～

感染対策室では、2019年12月に海外での症例報告以降、国内外の新型コロナウイルス感染症に関連する情報を収集し、同時に法人3病院の感染対策室とも共有しながら1月当初より院内感染対策マニュアルの作成に取り掛かりました。診療部・看護部・外来部門・救急外来部門の部門長や師長らと意見を交えながら、神戸の土地柄、春節による輸入感染症としての国内発生の可能性を考え、1月中旬に**空気感染対策用陰圧テントユニットを救急外来診療室へ設置**しました。

【救急科統轄部長／診療部長：高橋 徹也・救急外来師長：高尾 辰徳】

新型コロナ肺炎が蔓延し、感染の可能性がある患者様の明確な特徴がなくなってからは、受診された患者様を受け入れるにあたり、新型コロナ感染を疑うか疑わないかの判断が困難になりました。そこで救急外来では、新型コロナに感染しているかもしれない患者様を、他の患者様と接触させないため、また医療者が不用意に接することで感染することを防止するため、一定のルールに基づき対応しています。

救急科統轄部長／高橋 徹也



【救急外来対応マニュアル】



- ① 受診患者様に発熱がある場合、新型コロナに感染されている可能性があると考え、まず個室診療室(1室のみ)に入って頂き、初療を開始します。対応にあたる医療従事者は少人数に限定し、手袋・マスク・アイシールド・エプロン着用し、感染を防御します。患者様がマスクをされていなかった場合は、マスクを着用して頂きます。
- ② PCR検査を行っても、保健所に提出するため、結果が出るまでに半日程度かかります。そこで、発熱患者様にはまず胸部CTを施行し、肺炎の有無を確認します。CTで肺炎像がなければ、新型コロナ罹患はないと判断し、個室診療室から出し、次の発熱患者様に備えます。
- ③ CTで肺炎が認められた場合、個室診療室で感染防御をしながら検査・治療を継続し、PCR検査を施行します。PCR検査の際は、患者様が咳き込まれるなど飛沫が出やすい状況となりますので、検査施行者は、十分な感染防御しつつ検査を行っています。

コロナウイルス感染症第2波に備える ～新しいライフスタイルを日常に～

コロナウイルス感染症の第1波が落ち着き、徐々に経済活動が再開されています。しかし、ウイルスに対する治療法が確立されていない今は、感染予防行動を取りながら、第2波、第3波に備えることで、最小限の被害に抑えることができます。新しいライフスタイルを取り入れ、制限された日常生活でもストレスに負けない心と身体作り、ケアに取り組むことが大切です。

<感染予防行動>

- ① 手洗い・マスク着用の励行
- ② 3密(密閉空間・密集場所・密接場面)の回避
- ③ 不要不急の外出を控える



<感染症とストレス反応>

現在の感染症流行下では、一般的なストレス反応に加え感染症特有の反応が出現しやすくなります。

感染症流行特有の反応

- 感染と死への不安・怒り・隔離への恐怖・不信感といった**気分**
- 他責的、排他的、原因の追究(患者探し)といった**思考**
- 感染症とそれによる危機から逃れるための**行動**(買占め・拒絶・孤立・情報収集)
- 感染症の対応に従事する、または病院職員というだけで嫌悪の対象になったり、周囲との人間関係が悪化したり葛藤を経験する

日本赤十字社「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対応する職員のためのサポートガイド」より引用

一般的なストレス反応

身体的側面

急にドキドキする、頭痛、胃のむかつき、便秘・下痢、肩こり・不眠

心理的側面

無気力、イライラ、憂うつ、不安、怒り、罪悪感、孤独感、疎外感、集中力の低下

行動的側面

暴飲暴食、泣く、ミスをする、遅刻や欠勤、笑わない、対人交流を避ける

ストレスへの反応

- ① 心身の変化に気づきましょう。
自分自身の体調について客観的に、落ち着いて判断しましょう。
- ② 生活リズムを崩さず、なるべくいつも通りに過ごしましょう。
睡眠・起床のペースを保ち、暴飲暴食にならないようにすることや適度な運動を行うことで、セルフコントロール感を感じることができ、感染症による不安に脅かされない自分自身を保つことにつながります。
- ③ 正しく情報収集しましょう。
情報やニュースを読み続けることは避けましょう。情報過多は必要以上に不安な気持ちになるかもしれません。
- ④ 家族や友人とのつながりを維持することを心がけましょう。
孤立感を深めないように電話やSNSなどを利用しコミュニケーションを取りましょう。
- ⑤ 感情を隠したり抑え込まないようにしましょう。
有事の際に不安・恐怖が出現するのは、起こって当然のこころの反応です。周囲の人と感情や意見を共有しましょう。
- ⑥ 楽しむことを続けましょう。
できることや場所は限られてはいますが、音楽を聴く、読書する、絵を描くなど自分なりに楽しむことを続けましょう。楽しむこと自体は自粛する必要はありません。
- ⑦ 緊張を緩めましょう。
入浴、ストレッチ、体操、アロマテラピー、瞑想など適度に行い、心身の緊張を緩めましょう。

引用・参考資料 ● 一般社団法人日本産業カウンセラー協会 <https://www.counselor.or.jp/covid19/tabid/505/Default.aspx>

● 日本赤十字社「感染症流行期にこころの健康を保つために」シリーズ http://www.jrc.or.jp/activity/saigai/news/200327_006138.html

貸切バスで 快適な旅

安全

快適

親切

グループでの
パーティーや旅行に

会社での
見学・研修に

クラブでの
合宿・試合に

豊富なバリエーションで、あらゆるシーンに対応いたします。



マイクロバス

乗務員 1名
座席数 27
(内補助席 6)
トランク なし

中型送迎バス

乗務員 1名
座席数 44
(内補助席 7)
トランク なし

大型観光バス

乗務員 1名
座席数 53～56
(内補助席 8～10)
トランク あり

その他、ワゴン車タイプや大型送迎バスなどもございます。(いずれも運転手付き)



〒658-0031 神戸市東灘区向洋町東1丁目4
TEL:078-845-3710 FAX:078-845-3713
<http://www.kobe-minato.co.jp> みなと観光バス

ご相談・お問合せ・お見積り

お客様窓口 078-845-3710

国土交通省制定「新運賃料金制度」に基づいた適正料金にて運行いたしております。

神戸老舗《萩原ブランド》を使用した
美味しいコーヒーの店

Ric Cafe!



六甲アイランドにお住まいの皆様、六甲アイランドに訪ねて来られた皆様、ほっと一息つける温かみのある落ち着いた空間と、美味しいコーヒーやバラエティに富んだフード、デザートをご用意して皆様のお越しをお待ちしています。

※六甲アイランド甲南病院を利用されている方には診察券のご提示でドリンク 50円割引サービスを実施しています。



六甲アイランド シティモール (六甲アイランド甲南病院 2F出口から直ぐ)
Ric cafe リックカフェ AM7:30~PM6:00(年中無休)
〒658-0024 神戸市東灘区向洋町中2丁目11 TEL:078-811-7116



photo: 竹中工務店 大阪本店
執務空間に設置した「閃き階段」

ビルからひとへ

～ひとから発想し、成長し続けるオフィス～

竹中工務店は、「環境」に「ひと」の視点を加えた建築で「新たな価値創造と生産性向上」を目指し、本店リニューアルを行い、自ら実証実験を続けています。

想いをかたちに 未来へつなぐ



<https://www.takenaka.co.jp/>

Konan SC “甲南”と共に

- | | | |
|---|---|---|
| 保険代理事業
・事業活動の保険
・賠償責任保険
・各種損害保険 | 文化事業
・カルチャー教室(20講座)
・地域連携事業
・看護英語事業 | 環境事業
(警備・清掃・用度)
海外事業
(留学・研修) |
|---|---|---|
- 業請事業 (派遣・事務請・図書館業務) の各種事業

(株) 甲南学園サービスセンター

〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町2-29-15 (平生記念館内)
お問合せ TEL:078-854-1605 / FAX:078-854-0027
H P <http://www.konan-isc.co.jp>

より良い明日へ
一歩先のサービスを



カワサキ ライフ コーポレーション

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号 神戸クリスタルタワー
TEL: 078-360-5400 FAX: 078-360-5405 URL: <http://www.kawasaki-life.jp>
事業所: 神戸 / 東京 / 岐阜 / 明石 / 坂出

